

同社の素晴らしい原点には、25歳の時からこの仕事に、自らの人生すべてを賭けよう、とされた、**菅原社長の極めて強い事業への思い**があります。

そんな社長の「思い」を核として、その理念を皆が共有し、同じ方向を向いて、会社を成長させている点にあります。

経営者ひとりで作っているものではなく、同社の理念に共感した社員らとともに、皆で創り上げているということですよ。

また、「ノー」と言わない究極のサービスを提供するために、社員ひとりひとりが、お客様の「ご家族と同じ気持ちになり、誠心誠意、お手伝いしていくこと」を、「ここまでやってくださるの？」と言われるほど、丁寧な仕事をされていることが、社員の方のお話からわかりました。

黒子として、お客様の思いに徹底的に心を重ね、究極のサービスを提供していくためには、**前向きに進捗しつづける社員の資質の高さが不可欠**です。菅原社長は、常々、社員にこのように、語りかけているそうです。

「厳しい組織には、豊かさが同居する。優しい組織には、辛さが同居する。」

2011年3月11日の東日本大震災では、清月記様ならではの対応をされていました。震災後しばらくは、火葬しきれない遺体は、自衛隊が土中に仮埋葬していましたが、3月末で、この仮埋葬作業から引き揚げました。代わりを引き受けたのが、清月記社員の方たちです。5月には、すべての遺体を掘り起し、火葬まで立ち会ったそうです。

このとき、過酷な環境で、不眠不休で働く社員たちに、朝昼晩の食事を提供したのは、同社のケータリング事業部でした。

また、遺体の安置、納棺、仮埋葬、掘り起しの際、現場で作業していた社員たちは、遺族からの罵声を浴びるなど、壮絶な状況だったにもかかわらず、誰ひとり、不満や文句をいうことなく、ただ黙々と、故人の尊厳を重んじるために最善を尽くしたそうです。

どうして、「ここまで清月記の社員はできたのしょうか？」

写真下：斎苑および家族葬ホールでは、それぞれ、社員の方々から丁寧なご説明をいただきました。もちろん、アタックスコンサルタントを含めた、参加者同士の交流も多かったです。

写真左：斎苑正面玄関にて、集合写真の撮影

写真左・下：家族葬ホールの室内見学



今後は、新事業であるプライベートプロデュースサロン「リア・フィユ」や、英語で預かる学童・幼児保育「Kids Duo」などを含め、**総合葬祭業から、総合生活支援業への転換**を目指されているようです。ますます仙台で愛される池クジラ企業として発展されていくことが期待されます。

最後に、皆様からの感想をご紹介します！

「徹底して考え、スピードを持って行動する。その根底にある哲学・理念、すべてが素晴らしい会社だと思いました。とくに、『同業他社のやり方を気にしていない』というお言葉が印象的でした。自社も徹底してマーケットとお客様を見据え、事業を展開していきたいと思えます。」

「視察クラブ2回目の参加ですが、営業の大切さと、子育ての大切さは、よく理解できました。今、自分のやっていることは、間違っていない、と改めて感じることで、大変よかったです。」

「同じ市内のサービス業を営む者として、徹底した社員教育(細やかな気配りや、理念の共有などを重視されている点)が、大変参考になりました。」

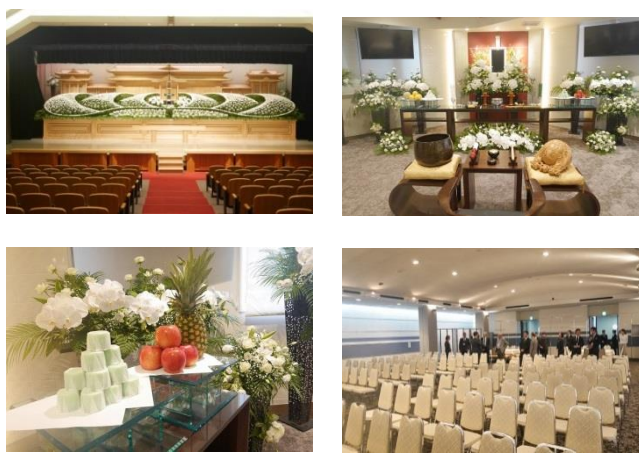
「徹底したブランド化をされている点と、業者目線ではなく、お客様目線を目指すされている点、業界の当たり前をくつがえす考え方に学びがありました。」

「毎回思いですが、西浦社長の視察先企業の事前解説が大変参考になります。事前に学ぶことよって、より一層、深い理解を得ることが出来ます。今後も、引き続き、よろしく願っています。」

「ココロでコトを売っているので、他社から価格では勝負されないと、人財教育の大切さについて、学びました。」

「人財教育の詳細について、もっと深いところまで、聴いてみたいとも思いましたが、その素晴らしいことについては、多くの気づきがありました。」

☆現在のアタックス視察クラブ
会員数は**150社**です！
是非、ご友人にご紹介ください。



発行：アタックス社長塾運営事務局
〒450-0002 名古屋市千代田区名駅5-27-13
TEL (052) 586-8841 FAX (052) 586-8833
発行年月日：2016年11月22日
執筆：西浦美智子(アタックス視察クラブ事務局次長/中小企業診断士)